

平成 22 年 1 月 22 日

各 位

不動産投資信託証券発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号

六本木ヒルズ森タワー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 博之

(コード番号：8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 博之

問合せ先 管理本部長

板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2009 年 12 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2009 年 12 月度の月次総売上高並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人である株式会社ホテルマネージメントジャパンから開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

ホテル／項目		12 月度	対前年 同月増減 注6)	(参考) 累計 注7)	(参考) 対前年 累計増減 注8)
神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	稼働率	82.9%	0.9%	75.6%	-2.6%
	ADR (円)	16,271	-2,455	15,238	-1,673
	RevPAR (円)	13,485	-1,864	11,525	-1,699
	売上高 (百万円)	538	-41	2,206	-117
オリエンタルホテル 東京ベイ	稼働率	88.1%	0.1%	89.0%	-1.9%
	ADR (円)	18,262	-2,725	17,414	-2,462
	RevPAR (円)	16,097	-2,383	15,498	-2,574
	売上高 (百万円)	597	-36	2,273	-250
なんばオリエンタルホテル	稼働率	84.6%	9.4%	81.7%	-1.1%
	ADR (円)	9,472	-1,589	9,250	-1,706
	RevPAR (円)	8,017	-308	7,561	-1,511
	売上高 (百万円)	158	-2	588	-55
ホテル日航アリビラ	稼働率	44.6%	-15.2%	62.6%	-17.0%
	ADR (円)	24,073	-2,550	23,906	337
	RevPAR (円)	10,734	-5,184	14,954	-3,785
	売上高 (百万円)	266	-102	1,412	-326
オリエンタルホテル広島	稼働率	69.3%	-2.7%	74.3%	-3.2%
	ADR (円)	8,691	-417	9,083	-28
	RevPAR (円)	6,024	-533	6,748	-310
	売上高 (百万円)	195	0	773	-36
上記 5 ホテル合計	売上高 (百万円)	1,753	-181	7,252	-784

12月度の実績に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、価格訴求型商品の積極的な販売により稼働は前年同月を上回ったものの、ADRは前年同月を下回る結果となり、売上も前年同月を下回りました。料飲部門において、婚礼宴会の売上は婚礼件数増により前年同月を上回ったものの、レストラン売上は客数の減少により前年同月を下回ったため、部門全体売上は前年同月を下回りました。結果として、ホテルの総売上は、前年同月を約41百万円下回りました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門では、東京ディズニーリゾート25周年の集客効果剥落及び競合施設間の価格競争が強まる中、柔軟な価格政策により、前年同月と同程度の稼働率を維持したものの、ADRが前年同月を下回ったため、売上も前年同月を下回りました。料飲部門において、レストラン売上は景気停滞の影響等から昼食・夕食売上が減少し、前年同月を下回ったものの、婚礼宴会の売上は新チャペルオープンの効果等により前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約36百万円下回りました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、価格訴求型商品の積極的な販売により、稼働率が前年同月を上回りましたが、ADRの低下を避けられず、売上は前年同月とほぼ同水準となりました。レストラン売上はこれまで実施してきた集客施策が奏功し、前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月と同水準となりました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門では、沖縄への入島者数が前年同月を下回る傾向が続く中で、年始年末の日並びの悪さ等の影響も加わり、ADR及び稼働率共に前年同月を下回り、売上も前年同月を下回りました。料飲部門では、レストランウェディング及び婚礼宴会は好調だったものの、宿泊者数の減少に伴う影響により、売上は前年同月を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約102百万円下回りました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門では、集客チャネルを拡充し需要取り込みを強化したものの、売上は前年同月を下回りました。料飲部門において、レストランの売上が各種集客施策により、前年同月を上回ったことから、部門全体の売上は前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月と同水準となりました。

※ご参考

新型インフルエンザの影響について

12月度における新型インフルエンザを起因とした予約キャンセル額（直接的影響）は、5ホテル合計で約2百万円となっており、新型インフルエンザのホテル売上に対する影響額は限定的となっております。このため、来月以降の開示から、新型インフルエンザの影響に関する開示を取り止め、状況等の変化が生じた場合に改めて報告いたします。

注 1) 上記のコメントは資産運用会社が貸借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているも

のではなく、資産運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。

- 注 2) 各月の数字については監査等の手続きを経ていないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。
- 注 3) ADR：平均客室販売単価 (Average Daily Rate) をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計 (サービス料を除きます。) を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。
- 注 4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上 (Revenue Per Available Room) をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。
- 注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。
- 注 6) 対前年同月増減とは当該月と前年同月との増減を記載しています。
- 注 7) 累計とは当期期首から当該月までの累計値を記載しています。
- 注 8) 対前年累計増減とは、当期期首から当該月までの累計値と前期期首から前年該当月までの累計値との増減を記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>